

演奏会予定

Concert Information

2013年 **2/23** 第85回定期演奏会
[土]14:30開演

東京芸術劇場コンサートホール
指揮:曾我 大介 朗読:覚 和歌子 ソプラノ:浪川 佳代

「和のこころ」

～美しい日本語と音楽が響き合うとき～

シェーンベルク/浄夜(朗読:覚和歌子)

ドヴォルザーク/

交響曲第9番「新世界より」

第二楽章(朗読:覚和歌子)

曾我大介/森のシンフォニー《初演》

(朗読:覚和歌子、ソプラノ:浪川佳代)

ドビュッシー/交響詩「海」(朗読:覚和歌子)



2013年 **3/20** 第86回定期演奏会
[水・祝]14:30開演

東京芸術劇場コンサートホール (11/19発売)
指揮:内藤 彰 ピアノ:木田 左和子



～マーラー新校訂版シリーズ～

シマノフスキ

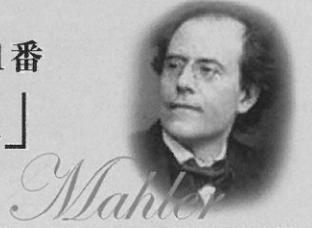
交響曲第4番《協奏曲風》

マーラー

交響曲第1番

「巨人」

(新校訂版)



カジュアルクラシックス♪

ショパン 華麗なる協奏曲の調べ

12月8日(土)14:00 / 練馬文化センター

12月9日(日)14:00 / 立川市市民会館

指揮:曾我大介 ピアノ:小山実稚恵

ショパン/ピアノ協奏曲第1番

アンダンテ・スピアナートと

華麗なる大ポロネーズ

ピアノ協奏曲第2番

全席指定4,500円(友の会割引あり) 好評発売中



青島広志の音楽の時間ですよ!

1月5日(土)14:00 / 北とびあ

1月6日(日)13:30 / 坂戸市文化会館

指揮・お話:青島広志

ベートーヴェン/交響曲第6番「田園」より

シュトラウスII/美しく青きドナウ

シュトラウスI/ラデツキー行進曲 ほか

一般:4,000円

学生(中学生以下):3,000円(友の会割引あり)

※3歳以上入場可 好評発売中



※都合により、出演者・演目が変更になる場合がございます。ご了承ください。

各回 S:¥6,000 A:¥4,500 B:¥3,000 C:¥2,000 リラックスシート:¥3,000

●学生半額(25才以下、S除く) ●小中高生¥1,000(保護者同伴、S除く) ●シニア割10%引(60才以上)

お申し込み・お問い合わせ:東京ニューシティ管弦楽団 チケットデスク

Tel.03-5933-3266(土・日・祝除く 10:00~18:00)

友の会会員募集中!

年会費500円 ●定期演奏会チケット15%引き

●その他コンサートの割引有

●CD・書籍等の割引販売...等々

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA

東京ニューシティ管弦楽団

第84回定期演奏会

2012年11月2日(金) 19:00開演

東京芸術劇場コンサートホール
Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

主催:一般社団法人東京ニューシティ管弦楽団

Members

東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰 コンサートマスター 執行 恒宏
首席客演指揮者 曾我 大介 客員コンサートマスター 浜野 考史
客演指揮者 アンドレイ・アニハーフ

本日の出演者

●第1ヴァイオリン

○執行 恒宏
中澤 真理子
中村 朱見
上田 博司
中川 さと子
剣持 由紀子
河合 晃太
大澤 美佳
浅井 千裕
城代 さや香
吉田 敬美

●第2ヴァイオリン

○大林 典代
高階 久美子
伊東 佑樹
秀川 みずえ
大塚 杏奈
松岡 聡子
豊田 恭子
七海 仁美
齋田 真紀
谷野 梨紗
桂川 千秋

●ヴィオラ

○中山 良夫
宇佐美 久恵
浅川 文
沼田 由恵
久郷 寿実子
坂本 晴人
古田 敦子
山口 真
三品 芽生
鈴木 友紀子

●チェロ

○玉川 克
星野 敦
船田 裕子
松谷 明日香
望月 直哉
村上 咲依子
平山 正三
清水 亜裕美
棟元 名美
星野 智也

●コントラバス

○佐々木 等
青山 幸成
照井 岳也
飯田 克哲

鈴木 智

関 ますみ
高橋 直人

●フルート

○立住 若菜
○井ノ上 洋
福田 将史

●オーボエ

○徳田 振作
池田 祐子

●クラリネット

○西尾 郁子
松元 香
大橋 裕子

●ファゴット

○藤田 旬
松里 俊明

●ホルン

○猪俣 和也
津守 隆宏
山田 圭祐

木村 隆

高橋 将純
加藤 智浩
小川 敦

原川 翔太郎

佐久間 優

●トランペット

○中西 清一
後藤 慎介
依田 泰幸
鎌田 朋幸

●トロンボーン

○渡辺 善行
平田 芳子
石川 浩

●チューバ

○稲増 優乙

●ティンパニ&打楽器

○倉永 淳
大河原 涉
渡辺 壮

○印は本日の首席奏者

パーソナルマネージャー

山川 奈緒子

ステージマネージャー

梅津 敦

ライブラリアン

中村 麻裕子
石本 順子

〔事務局〕

事務局長 高松 正典 参与 児玉 慶三
営業・企画 上原 久幸 森田 祐世
事務局スタッフ 森本 芙紗慧 福島 貴子 相吉澤 絵里 山本 ふさこ
チケットデスク 武曾 眞紀子 木村 有美子 坪井 一広

イメージコーディネーター 古山 忠男 嵯峨 亮子

Program The 84th Subscription Concert

第84回定期演奏会

指揮：内藤 彰 Conductor : Akira Naito

サクソフォン：上野 耕平 Saxophone : Kohei Ueno 第28回日本管打楽器コンクール特別大賞
東京ニューシティ管弦楽団賞 受賞

パーカッション：石若 駿 Percussion : Syun Ishiwaka

ピアノ：永井 基慎 Piano : Kishin Nagai

コンサートマスター：執行 恒弘 Concert Master : Tsunehiro Shigyo

～ブルックナー世界初演シリーズ～

吉松 隆 Takashi Yoshimatsu (1953-)

サクソフォン協奏曲「サイバーバード」 op.59

Saxophone Concerto Cyber-bird, op.59

〈休憩15分〉 intermission [15min.]

ブルックナー Anton Bruckner (1824 -1896)

交響曲第7番 ホ長調〈川崎校訂版世界初演〉

Symphony No.7 in E major
"World premiere edition Kawasaki revision"

第1楽章 Allegro moderato

第2楽章 Adagio

第3楽章 Scherzo

第4楽章 Finale

お願い 演奏中は、携帯電話・アラーム付時計等は演奏の妨げにならないようご配慮ください。
他のお客様のご迷惑になる様なご行為は慎んでいただきますようお願い申し上げます。



文化芸術振興費補助金
(トップレベルの舞台芸術創造事業)



企業メセナ協議会
助成認定活動

(Profile)

Conductor : Akira Naito

内藤 彰(指揮)



名古屋大学理学部在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明各氏他に師事し、修了後(社)山形交響楽団の専属指揮者を務めたのち、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。

海外では、1991年ベオグラードフィル、1992年にはモスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ交響楽団を指揮。その後1996年5月、ロシアの国立ヴァローニッシュ歌劇場にて『セヴィリアの理髪師』を、1997年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて『蝶々夫人』、また2001年3月にはサンクトペテルブルグ・カペラ交響楽団、2002年5月ロシア国立ウリヤノフスク・アカデミー交響楽団に客演している。その他にも2001年12月の北ハンガリー交響楽団、

2002年7月ミラノスカラ座フィルのメンバーを中心とする州立ロンバルディア室内管弦楽団の北イタリアツアー、2003年3月メキシコ州立交響楽団、2010年4月にはメキシコ国立交響楽団の定期演奏会を指揮している。また2011年5月にブルガリア国立プロヴディフィルに客演した。

2004年1月に行なわれた歌劇『蝶々夫人』公演(東京ニューシティ管弦楽団第34回定期演奏会)にて、日本の伝統的‘かね類’(寺の釣鐘の音、お椀型のキン、風鈴他)に、12音の音程を持たせ‘楽器’として特注創作、それにより作曲者の願う本当の『蝶々夫人』の世界初演に成功し、音楽界の話題をさらうことになった。更に2004年7月には、イタリアのブッチェーニ・フェスティバルにおいて、この鐘が使用され、地元の新聞・テレビに大きく取り上げられている。

2004年以来ブルックナーの交響曲第8番のAdagio楽章をはじめ、交響曲第5番、第9番など新稿の世界初演を果たした。この「ブルックナー新稿の世界初演シリーズ」の話題は、多くの新聞、音楽雑誌を賑わすのみならずライブ録音のCDは、「レコード芸術」誌などで高く評価されている。また、日本初のブライトコップフ新版によるベートーヴェン交響曲チクルスも大いに注目を集めている。

2009年1月に初めての著書「クラシック音楽 未来のための演奏論〜くつがえるオーケストラ演奏の常識!〜」を毎日新聞社より出版し、斯界に大きな反響を呼びおこし話題にのぼったことは記憶に新しい。また昨年5月の第74回定期演奏会にて、初演以来世界中で誤って演奏されてきたドヴォルジャーク作曲【新世界から】の数多くの楽譜の誤りを訂正し世界初演した。今後その校訂版は世界に向け発信されていく予定である。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及びプロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督・常任指揮者。日本指揮者協会幹事。

Saxophone : Kohei Ueno

上野 耕平(サクソフォン)



1992年生まれ。茨城県東海村出身。8歳から吹奏楽部でサクソフォンを始める。これまでに原博巳、須川展也、鶴飼奈民の各氏に師事。

第7回日本ジュニア管打楽器コンクール金賞、同第10回金賞、第12回ジュニアサクソフォンコンクール第1位など数々の賞に輝いたのち、昨年行われた第28回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門において、第1位(史上最年少)ならびに特別大賞(内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、東京都知事賞)を受賞。

今年始めには、師である世界的サクソフォン奏者須川展也氏の「須川展也EXツアー2012」にゲスト出演し全国各地でデュオを演奏。高評を博す。

また、7月にはスコットランドで行われた第16回世界サクソフォンコンGRESSにおいて、吹奏楽をバックにコンチェルトを演奏するなど、吹奏楽との共演も多い。

現在、東京藝術大学音楽学部器楽科2年在学中。

Percussion : Syun Ishiwaka

石若 駿(パーカッション)

1992年札幌市出身。4歳でピアノを習い始め、5歳でドラムに触れ、13歳よりクラシックパーカッションを始める。

2006年8月、日豪交流派遣事業によりシドニー「オペラハウス」にて演奏。2007年、三笠宮寛仁親王主催の「愛のコンサート」に出演し日野皓正氏、山下洋輔氏らと共演。2008年パークリー音楽院の「グルーヴ・キャンプ」を受講し「パークリーアワード」を受賞。翌年夏、奨学生としてパークリー音楽院に留学。2012年4月よりフジテレビアニメ『坂道のアポロン』のドラム演奏、モーションを担当。これまでに打楽器を大垣内英伸、杉山智恵子、藤本隆文の各氏に師事。東京藝術大学付属高校を経て、同大学2年在学中。



Piano : Kishin Nagai

永井 基慎(ピアノ)

1992年生まれ。東京藝術大学付属高校を経て、同大学に入学後、渡仏。2009年第63回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第3位入賞、全国大会入選。同年、静岡音楽館AOIにて野平一郎氏企画 第4期ピアノ伴奏法講座を受講。修了演奏会にて漆原啓子氏とフランクのヴァイオリンソナタを共演。2010年第22回宝塚ベガ音楽コンクールピアノ部門第3位入賞。現在、ピアノを横山幸雄、長尾洋史、Jacques Rouvier、Denis Pascalの各氏に師事。現在、東京藝術大学、パリ国立高等音楽院に在籍。(財)明治安田クオリティオブライフ文化財団海外音楽研修奨学生。



《自筆譜から 視えてくるもの》

川崎 高伸
Takanobu Kawasaki

ブルックナーは、自作の交響曲にたくさんの資料を残しました。それらが現存しているからこそ一連の「複数稿」の出版が可能となったわけです。ところが、《第七交響曲》に限っては、帝室王室図書館に遺贈された自筆譜が唯一残っているだけです。ただ、その自筆稿には、作曲時の変更も含めて、初演・初出版に向けてのブルックナー自身や他人による、多くの加筆や補正がなされています。他人の手になるものとは言え、ブルックナーの指示あるいは同意の許になされたものもあるし、ただ単に、作曲家の雑な上書き修正によって不鮮明になった音符を上から五線紙片を貼って他人が補正しただけのものもあるので、一概に他人の書き込みを「オリジナルではない」と言って切って捨てるわけにもいきません。

そうした資料の現状の中で、今回の校訂は、第1次全集版校訂者であるハースが目指した「ブルックナーのオリジナルの追求」というコンセプトをさらに1歩進め、精度を高めることを志向しています。ある部分ではハースが採用しなかった改訂前の姿の復元を試み、ある部分ではハースが追加のテンポ指示の一部を残存させてしまったのを改め、全面削除してテンポの統一化を図っています。例えば、フィナーレ主部では第1主題の動機は一定のテンポが保たれ、コーダにおける荘重さと静謐さが強調されることとなります。

また、右記自筆譜の第1楽章第3主題提示直前のコントラバスのように、全ての既出版譜が自筆譜通りでない箇所も是正されました。

本日の演奏で、ブルックナーの《第七交響曲》は、今まで聴くことが出来なかった、より当初の構想に近い姿を現すことになるでしょう。

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://tnco.or.jp/concert/20121102.html>
上記のページ内の《川崎校訂版》をクリックしてください。

ブルックナーは、自作の交響曲にたくさんの資料を残しました。それらが現存しているからこそ一連の「複数稿」の出版が可能となったわけです。ところが、《第七交響曲》に限っては、帝室王室図書館に遺贈された自筆譜が唯一残っているだけです。

【自筆譜】



Der Musiksammlung der Österreichischen Nationalbibliothek, Mus.Hs.19.479

Program Notes

ブルックナー交響曲第7番ホ長調

吉田 真
Makoto Yoshida

1824年9月4日にオーストリアのリンツ郊外アンスフェルデンで生まれ、1896年10月11日にウィーンで亡くなったアントン・ブルックナーは、同時代を生きたヨハネス・ブラームスと同じく、交響曲第1番を完成したときはすでに40歳を超えていた。しかし、オペラを除くあらゆるジャンルの音楽を作曲したブラームスとは対照的に、ブルックナーは宗教的な合唱曲を除くと、もっぱらベートーヴェンの第9を手本とした長大な交響曲の創作に心血を注いだ。番号が付された交響曲は9曲だが、他に2曲の完成作がある（それぞれ0番、00番と呼ばれることもある）。独特のオーケストラ書法ゆえか、どの曲も初演に漕ぎつけるまで苦勞し、惨憺たる失敗も経験したが、この第7番に至って初めて大成功を収めた。

ブルックナーは作曲を終えてからも、さまざまな理由から手を加える改訂癖があり、しばしば各交響曲には複数の稿が存在している。しかし第7番の場合、作曲者による大きな改訂はなく、校訂者により次の3種類の出版譜が存在するだけである。

- ①初版 1885年（いわゆる「改訂版」）
- ②旧全集版 1944年（ハース原典版）
- ③新全集版 1954年（ノーヴァク原典版、2003年ボルンヘフト再校訂）

これらのうち①の「改訂版」は1884年12月30日、アルトゥール・ニキシュの指揮によりライプツィヒ市立劇場で初演されたときのスコアで、翌年3月10日にミュンヘン初演を指揮したヘルマン・レーヴィの尽力でウィーンのアルバート・ゲートマン社から出版された「初版」である。この総譜はバイエルン国王ルートヴィヒ2世に献呈された。

②と③はいずれも、初演以来ずっと使用されていた「改訂版」に対して、「原典版」として編集された楽譜だが、ローベルト・ハースが校訂した②の旧全集版とレオポルト・ノーヴァクが校訂した③の新全集版で一番目立つ相違は、第2楽章アダージョのクライマックスだろう。ハース版はティンパニ、シンバル、トライアングルの打楽器群追加をブルックナーの弟子シャルク兄弟の発案と考え、すべて削除したのに対し、ノーヴァク版は作曲者が書いたものは印刷するという方針のもと、これを初版と同じく採用している。また、ハースは初版の細かいテンポ変更の指示の多くも削除したが、ノーヴァクはカッコ付きで復活させ、実質的に初版に近いものになった。今日では③のノーヴァク版が優勢で、リューディガー・ボルンヘフトによる再校訂版の使用も増えていくと予想されるが、②のハース版も今なお根強い支持者がある。また、アダージョの打楽器群の扱いは使用楽譜にかかわらず、指揮者の自由裁量による場合も多い。本日の演奏は、これらのいずれとも違う新校訂版で行なわれるので、詳細は校訂者の川崎高伸氏の解説をお読みいただきたい。